



昨年9月に行われた島根県特別支援学校総合体育大会サッカー競技

島根県では、知的障がい特別支援学校6校で「特別支援学校総合体育大会」を年に1回9月に開催しています。各校高等部の生徒が、部活動として日々取り組んでいる練習の成果を競い合う場ではありませんが、本県は陸路で東西約200キロと長く、また離島の隠岐の島もあります。そのような県内各地から、さまざまな規模の学校で学ぶ生徒が参加して交流する貴重な機会ともなっています。

もともとは「知的障がい養護学校スポーツ交流会」という名称で、高等部に在籍する全ての生徒が交流する場でした。生徒の障がいの状態に応じてサッカーの競技やそ

離島含む県全域の生徒が4球技で競う

の応援、あるいはその他の活動を通して交流する場として、長年行われてきました。

その後、在籍生徒の実態の変化などに応じて、競技種目や参加の方法などを変更し、平成24年度から現在の名称の下、種目もサッカー、フットサル、バスケットボール、卓球と充実させて、毎年200人を超える生徒が参加する大会となっています。

参加する生徒にとって、この大会で優勝を勝ち取るとは大きな目標であり、個々の技能はもちろん、体力や精神力、そしてチームづくりにも、各学校で日頃から取り組んできた成果が表れる活気に満ちた大会です。

昨年度の本大会サッカー競技の優勝校は、その後、第2回全国知的障害特別支援学校高等部選手権大会に挑戦。関西・中国地区予選を勝ち抜いて本戦へ出場しました。生徒にとってこの大会が、スポーツを通じた交流活動として、ますます充実していくことが望まれます。

(浅野博行・島根県立益田養護学校校長)